

（午前10時40分 再開）

○議長（中西峰雄君）休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を行います。

順番9、22番 楠本君。

〔22番（楠本知子君）登壇〕

○22番（楠本知子君）ただ今議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問をさせていただきます。

1番は、女性特有のがん検診推進事業についてでございます。

女性特有のがん検診推進事業が昨年10月から実施をされ、この平成22年3月31日で無料クーポン券利用期限が終了いたします。「広報はしもと」には、平成21年度限りの事業として対象年齢の女性に子宮頸がん検診、乳がん検診を無料で受けていただき、がんの早期発見とがんに対する正しい知識を身に付け、健康管理に役立てていただくものと広報されています。子宮頸がん検診の対象者は、橋本市では2,115人、乳がん検診対象は2,573人とお聞きしています。

①3月31日でこの事業は終わりますが、できる限り大勢の方に検診に行っていたきたいと思います。検診状況についてお伺いをいたします。

また、目標に対してどのように取り組まれるか、再度のお知らせなど考えておられますか。

②21年度限りの事業と広報されていますが、無料クーポンの検診は対象年齢が5歳刻みになっており、5年は続けないとすべての女性に行き渡らないことから、最低でも要件で5年間の事業の継続が不可欠です。国は、22年

度予算で女性特有のがん検診の国負担分を半分に減らし、半分は地方負担としています。女性の命がかかっています。今、今年度限りとせず続けての検診事業をすべきと考えますが、いかがですか。

③子宮頸がんの予防ワクチンが昨年12月22日に発売となり接種が始まりました。予防ワクチンと検診とのセットでほぼ予防できると期待をされています。予防ワクチンの接種費用は1回1万2,000円、それを3回は接種する必要がありますと言われていています。ワクチンの効率を考えると11歳から14歳が望ましいそうです。当然大人でも有効です。ワクチン接種への助成についてお伺いいたします。

④日本は、世界一のがん大国、2人に1人はがんになると言われます。東京大学附属病院の中川恵一準教授は、がんの教育の必要性を言われ、がんの秘密をテキストにしてがんの事業をされています。がんを考えることは生と死を考えることでもあり、がんを知ることによって自殺やいじめの問題の解決のヒントが見つかるとも言われています。小・中学校でのがんの教育についての見解をお伺いいたします。

2番目に、子育てを直接に担う保育行政の整備と充実についてお伺いをいたします。

長期総合計画の幼保環境を充実するため、幼保一元化施設認定こども園の整備を図り、運営の民間委託を推進するとともに、多様な保育ニーズへの対応や家庭の子育て支援等に取り組むとの指針のもとに幼保一元化5カ年計画が進められておりますが、大幅に遅れております。先般、ハイチでも大地震が起きて、私たちの不安は増しております。幼保の施設

の老朽化が目立ち、幼児の安全の確保が急務です。

①施設の耐震状況を示して小・中・大規模改修の優先順位を示すべきと考えますが、お伺いいたします。

②幼稚園の園区の緩和、3歳児教育、預かり保育のニーズが高いですが、どう考えられますか。

③応其幼稚園では給食があります。ほかの幼稚園でも、小学校同一敷地内の幼稚園での給食は考えられませんか。

④保育所の給食では、アレルギー給食の対応が除去食及び代替食で対応され、大変喜ばれています。私立においても、もちろん対応されています。小・中学校においてもできると考えますが、見解をお伺いいたします。

⑤幼稚園には用務員がおられます。通称、用務員というふうに書かせていただいたんですが、正式には、この橋本市の教育委員会事務局の職員の職の設置にする規則では校務員ということですので、校務員ということで間違っていますので、お願いします。幼稚園には校務員がおられます。多忙な保育所ではおられませんが、どう考えられますか。

⑥子どもたちが遊ぶ砂場が、特に猫の糞尿で汚れてきます。砂場の点検と整備についてお伺いいたします。

以上、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君の一般質問に対する答弁を求めます。

○議長（中西峰雄君）教育長。

〔教育長（森本國昭君）登壇〕

○教育長（森本國昭君）楠本議員のご質問にお答えいたします。

小学校体育課、中学校保健体育課で、児童生徒は健康な生活と疾病の予防を学習し、その中でがんについて学んでおります。ちなみに、中学校保健体育の3年生の教科書の生活

習慣病とその予防という単元は、日本人の三大死因であるがん、心臓病、脳卒中などの多くは生活習慣と関係が深いこと、さらに、喫煙や動物性脂肪の取りすぎ、塩分の取りすぎ、食物繊維や緑黄色野菜の不足などはがんにつながることなどが説明され、がんを防ぐための12カ条がイラスト入りで紹介されております。

日本は、がん大国と言われるほど発生率が高いとされており、がんについての学習は学習指導要領にも位置づけられており、実施しております。

ご提案のあった中川恵一先生のテキストについては販売されておりますので、学校に紹介し、教材研究の一助とさせていただきたいと思っております。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

〔健康福祉部長（森本健二君）登壇〕

○健康福祉部長（森本健二君）次に、女性特有のがん検診推進事業についてのご質問について、最初に、一点目の女性がん検診の検診状況及び目標に対する取り組み等についてお答えします。

女性特有のがん検診推進事業につきましては、6月30日を基準日として対象者を把握することになっており、最終的な確定数値としての対象者数をご報告申し上げますと、子宮頸がん検診が2,097人、乳がん検診が2,595人で行われました。検診状況につきましては、まだ実施期間中のため正確には把握できませんが、現時点で把握しているところでは、3月末までの予約分も含めて、子宮頸がん検診の受診率が15%弱、乳がん検診受診率が20%弱程度です。また、取り組み状況につきましては、従来より乳がん検診の実務医療機関が限られていたため、受け皿となる医療機関確保のため、紀和病院及び和歌山県立医科大学附属病院紀北分院にもご協力をお願いし新規

に委託契約させていただいたところです。集団検診につきましても、和歌山県民総合検診センター及び地元医師のご協力を得て、日曜日を含め、現在3回の追加実施をしているところです。

また、対象者の方々への啓発につきましても、個別にご案内を送付するのはもちろんのこと、「広報はしもと」9月号及び10月号、ホームページの掲載、学びの日などのイベントにおいても啓発活動を行ってまいりました。

ただし、対象となる方が一部の年齢の女性に限定されていることや、女性特有ということで気軽に受診できるものではないなどの状況もあり、その反響につきましても決して大きいものとは言えず、受診率につきましても、最終的に全体で20%余りになるのではないかと考えております。

今からでも再度のお知らせは考えていないかとのことですが、今まで、ダイレクトメールも含め啓発を行っておりますが、今年度の実施期間は残すところ3月末までのわずかな期間となりましたので、これまでの市ホームページにおける健康欄での掲載だけではなく、新着情報としても啓発しており、さらに、「広報はしもと」3月号にも掲載を予定いたしております。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

次に、二点目の検診事業の継続についてですが、議員ご指摘のとおり、今年度1年限りで終わることになれば不公平感が残るということもあり、現在、国において平成22年度予算案においても、市町村への補助金を計上していると聞いております。ただし、残念ながら、補助率につきましても、地方にも応分の負担をとることで、平成21年度の補助率10分の10から2分の1に下がると聞いております。

しかし、橋本市におきましても、補助金が減額になっても引き続き本事業を継続して取

り組んでまいりたいと考えているところであり、新年度当初予算として提案しているところでございます。

続きまして、三点目の子宮頸がんワクチン接種への助成についてお答えします。

子宮頸がんは、ワクチン接種により唯一予防できるがんのことで、このたび国においてワクチン使用が承認されたことは非常に喜ばしいことと感じております。ただ、その費用につきましても、1人3回の接種が必要になることもあり、決して安価なものではなく、橋本市として単独での実施は困難のため、今後、県を通じて国に対し予算措置の要望をしていくなど、対応を検討していく必要があるものと考えておりますので、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

保育行政の保育園に関する質問についてお答えします。

施設の耐震についてのおたただしですが、保育園では、こども園構想と整合をとりながら耐震改修について計画していきたいと考えております。現在、すみだこども園の見直しを先行させた中でこども園構想の見直しを実施しておりますので、結果を見て構想から外れる保育園について耐震計画を策定してまいります。

次に、保育所に校務員の配置というご提案にお答えいたします。

保育所では、厚生労働省省令第37号、児童福祉施設最低基準に基づき、保育士、調理員を配置しているところですが、障がい児対応、乳児対応、アレルギー児対応等、保育士、調理員とも日々大変厳しい労働を行っているのが現状でございます。

そんな中、ご提案は、保育士、調理員の体調をお気遣いいただいた大変ありがたい提案と感じております。しかしながら、全国にも校務員を配置している保育所はごく少数とい

うことでございますので、現状は、保育士、調理員の配置を優先してまいりたいと考えております。

続いて、砂場の点検と整備についてでございますが、従来より、保育園では、砂を消毒する、小まめに砂を掘り返して日光消毒する、使用しないときはネットをかぶせ犬・猫の進入を防ぐという作業により砂場の管理を行ってまいりました。また、年1回は2トン車1台分の新しい砂の補充も行ってまいりました。砂の消毒方法については、旧橋本市は塩素系消毒液の定期的散布があるのに対し、旧高野口町では砂場の砂を焼く熱消毒という違いがありました。現在は、塩素系消毒に統一し管理を行っているところでございます。ご理解のほど、よろしく申し上げます。

○議長（中西峰雄君）教育次長。

〔教育次長（西本健一君）登壇〕

○教育次長（西本健一君）保育所行政の幼稚園に関するご質問にお答えします。

まずはじめに、幼稚園の耐震状況を示し改修工事に優先順位をとのおただしについてお答えします。

幼稚園の耐震状況につきましては、小学校、中学校とともに、平成20年度で耐震診断を終え、昨年7月にホームページに耐震状況を公表しております。耐震診断を実施した幼稚園は4園で、そのうち橋本幼稚園と学文路幼稚園が耐震補強をしなければならない対象園となっております。

幼稚園の耐震対策につきましては、保育園と歩調を合わせながら、幼保一元化を図ることも園を1日も早く実現すべく現在懸命に取り組んでいるところでございますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

次に、幼稚園区の緩和、3歳児教育、預かり保育のおただしについてお答えします。

幼稚園には小・中学校と同様に園区の決ま

りがあり、自由に園を選ぶことはできません。園児によっては、指定された園より近くに他の園があっても、園区でないために通園できないケースもあります。そのような場合は、保護者の申請により指定園の変更が可能です。教育委員会では、利便性や安全面の配慮から、保護者の変更理由を尊重し変更させていただいております。今後もそのような対応をさせていただきたいと思っております。

なお、指定園変更の制度については、市のホームページで周知しております。

次に、3歳児教育、預かり保育の対応についてですが、経済状況の悪化や、少子化や孤立傾向にある保護者の状況を考えますと、地域で子ども同士や親子が集える環境が必要であると思っております。各幼稚園では、未就園児の親子のつどいを実施しています。また、現在、預かり保育はほとんどの園で実施しております。保護者の希望も聞き入れながら充実させております。

3歳児の教育については、今後こども園で実施する予定ですので、ご理解をお願いします。

次に、応其幼稚園のように、小学校と同一敷地内の幼稚園で給食実施は考えられないかというご質問ですが、応其幼稚園における給食は、ご存じのとおり、合併前の旧高野口町から実施されていたものです。高野口中学校の給食も同様ですが、新市として幼稚園、中学校も同じように給食を実施していければと思っておりますが、あいにく二つの学校給食センターの調理能力が子どもたちの人数に追いつかず、見送らせていただきました。しかし、少子化が進む中、平成24年度以降に園児、児童生徒数が本市給食調理能力5,500食以内に収まることが予測されます。つきましては、給食調理が可能となる時点をめどに、小学校と同一敷地内に関係なく、すべての幼稚園と中学校の給食を一斉に実施していきたいと考え

ております。

次に、アレルギー対応給食について、保育園同様、小・中学校でも可能でないかのご指摘ですが、保育園でのアレルギー対応の丁寧な配慮を見ておられますと、義務教育段階で十分な対応ができていないことは明らかです。昨年、橋本・高野口の給食センターの栄養士ともアレルギーの対応についての話し合いを持ってきました。現在の環境及び施設整備では十分な対応をすることは難しいのですが、先進地の事例なども研修し、今後も継続して検討を行っていきたいと考えております。

次に、幼稚園における砂場の点検と整備についてですが、保育園と同様に、定期的に塩素系の消毒液で消毒を行う、砂を掘り起こし日光消毒をする、園児の降園後や幼稚園が休みのときはネットをかぶせ犬や猫などの進入を防いでいます。砂場の砂は、随時砂の量を見ながら補充しています。

以上、衛生面では十分気を付けて管理しているところでございます。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君、再質問ありますか。

22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）どうもありがとうございます。1番のほうから再度お尋ねしたいところからちょっと聞かせていただきたいと思っております。

まず、成人式におきまして、ここの女性の方にがん検診の啓発のパンフレットを記念品の中に一緒に入れていただきましてしていただいたこと、ありがとうございます。お礼申し上げたいと思っております。

このがん検診の無料クーポンは昨年の10月からというふうな広報だったんで、期間が6カ月間ということで大変短い期間での啓発だったということもあるかと思うんですが、今受診状況を聞かせていただきますと、思っ

いたより、期待をしていたより、無料なのに低いなというのが感じているんですけども。ぜひともね、これ、行っていただきたいというふうに思うんですが、今回初めて、この、特に子宮頸がんの検診に行かれて思わぬところで見つかって、初めて行って良かったというふうな体験もお聞きしておりますので、ぜひとも行っていただきたいというふうに思うんです。この事業に対しての目標というか、事業を起こすということで、この事業に対しての検診率の目標はどのように持っておられたんでしょうか。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）目標ということでございますが、私も、最初、このがん検診、無料の配布したときにつきましては、かなりの方が受けて、半数近くの方が受けてくれるんじゃないかというような期待がございました。ただし、かなりの、例えば、60歳、70歳になったときにつきましては、先ほども答弁の中で申しさせていただいたんですけども、マンモスのほうの機械というんですかね、そういうやつが市内にないということで、事務担当者としてもかなり苦労したところでございます。

ただ、市としても、成人病センターの検診車というんですか、それも早急に予約してやったところですけども、実状的にはかなりなかってキャンセルさせていただいたというような状況でございます。ですけども、何ぼに置いたんなという、目標時ですけども、かなり高く、50%は行ってくれるんじゃないかというふうな形で思っておりました。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）その目標を持っていただけというのにはありがたいことやと思うんですけども、その目標を達成するために、

そしたら、何をしたらいいのかなということをお考えいただきたいと思うんですけども。やっぱりこの間1月の朝日新聞のほうに、子宮頸がんは予防する時代ですという広告が全面の半面使って大きく、講演の模様を含めていろんなあれが載っていたんですけども、その中で特に、この、受診の勧奨方法として海外の例を引かれていたんですけども、海外は今ではもう受診率が80%なんです。日本は非常に低いということで、イギリスが40%の受診率が80%に一気に上がったという方法として、日本は、いっぺん、そういう個人通知を送りますでしょう、そしたら、個人通知を送って、そしたらもうそれっきりなんです。特に、海外でされたことが、なぜまだ受けに行かれないんですかというふうに個人的に手紙を再度送られたり再度電話をされたりすることによって、短期間でこの受診率が上がったというふうに書いてあったんです。やっぱりそういうのも大変必要なことかなというふうにも思うんですけど。今、「広報はしもと」の3月号にもう一度載せられていただけのんですか。それは載せていただけのんですか。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）はい。もう3月の広報は締め切ってあったんですけども、ちょっと担当の方にご無理、読ませて、スペースというんですかね、大きくは、第1回の9月、10月にしたようなスペースはとれなかったんですけども、それについて一応今のところ予定をしております。小さいんですけども予定しております。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）そしたら、それ、広報の、できるだけ、紙面がいろいろ制約があるかと思いますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、ワクチンの助成について、これはも

う費用がかかるということで困難であるというふうに言われますんでもうこれ以上言えないんですけど、今、これ、ワクチンが昨年発売されて接種が始まったところでね、今ほかの市をちょっと紹介をさせていただきますと、明石市では小学校6年生から中学3年生の女子対象に全額を助成されて、対象6,000人に対して8,000万円が乗せられています。埼玉県志木市では、1,200人対象の小6から中3の女子に対しても全額助成されます。東京杉並区では、中学進学お祝いワクチンとして、中学1年生の女子対象に1,600人、1,970万円計上されます。名古屋市では中1・中2の2万人の方に半額補助。それから、新潟県魚沼市では中1女子213人対象に対して全額補助というふうに、国がやらない中でこういうふうに市が単独で補助をされるというふうな情報をお聞きしているんですけども、こういう情報を聞きますと、そういう市に私は住みたいなというふうに思っています。

予防接種というのは、やっぱりいろんな予防接種がありまして、やっぱり財政的な影響もあるし、それを、その影響もあると思うんですけども、その予防接種で予防可能な病気について、接種をしたことによって病気が抑制されるというのと、しないで医療費がかかるというふうなそのバランスと申しますか、そういうことを、どっちがお得というか、どっちがどうなのかというふうな研究をされてみてはどうかなというふうに思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）がんに関しての予防できる今新型の新しいワクチンということなんで、そういうふうな形でいろんな情報を取り集めさせていただきまして、今言われたような形で取り組んでいきたいと思っております。情報を集めたいと思ひます。

ただ、今のところは任意接種ということで今のところは国のほうが推奨されております。これが定期接種になれば国のほうからの助成もあるんじゃないかということで、先ほども答弁で言わせていただいたとおり、県を通じて大切なことであるので、取り組んでいただきたいというふうなことで機会をとらえて申し上げていきたいと思っております。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）女性であります副市长さんはどのように思われますか。

○議長（中西峰雄君）副市长。

○副市长（清原雅代君）先ほどいろんな市の名前挙げて、杉並区とか名古屋市とか挙げていただいたところは、いずれも財政状況がまあまあ良いところが多いなというふうにちょっと感じながらお聞きしていたんですが、非常に大切なことだと思うんですけども、今やはり橋本市の財政を考えたときに、何に重点を置いていくかというやはり優先順位とかめり張りを付けたことを取り組んでいく、まずは取り組んでいくべきだなというふうに考えておりますので、そういったことのワクチンがあるという啓発は、やはり機会をとらえて皆さんに十分知っていただく必要があると思っておりますので、当面はそれに重点を置きながら、先ほど森本部長がご答弁させていただきましたように、県・国に対してまだ要望を出していきたいと思っておりますので、また議員の皆さま方もご協力よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）よろしくお願ひいたします。

がん教育についてはやっただけしているということで、特にこの子宮頸がんや子宮体がんが全然違うということとか、そういうことがまだまだほとんど知られていないと思ひます。そして、こういうワクチン接種の効果

が出る期間も、女子では11歳から14歳とかいうふうなことも言われていますので、そういうあたりの教育を含めた形でもお願ひをしたいかと思うんですけども、どうでしょうか。

○議長（中西峰雄君）教育長。

○教育長（森本國昭君）やっているということは今答弁させていただきましたとおりでございます。今議員言われましたことを含めまして徹底していきたいというふうに思ひます。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）すみません、よろしくお願ひいたします。

次に、2番に移らせていただきます。

子育てを直接担う保育行政の整備と充実ということで、私も、今回初めて保育所と幼稚園を29園訪問させていただいた中で感じましたことを少し質問をさせていただきました。

この1番目に載っています、最初に耐震状況と小・中大規模改修の優先順位ということでございますけれども、これも、昨年9月からも先輩議員であります辻本議員さんが言われておりますので、私も同感でございます。特に、この施設を見させていただいて、ゼロ・1歳児がおられる保育所、名古屋保育所、伏原保育所、岸上保育所、柏原保育所、それから橋本東、すみだ保育所、三石保育園、こういう保育所はゼロ歳児からおられるんですよ。そういう意味からも、幼保一元化5カ年計画が進められている中で、今回すみだ園計画が発表されて前進をしたということはよかったですと思うんですけども、まだまだこれから先の見直し計画に対して、どういうふうにされるのかなというのが見えていないのでものすごく不安になるわけです。

この耐震計画を進めていくということで答弁をいただいているんですけども、耐震計画とともに、こういうゼロ歳児や1歳児がおられる保育所の整備も含めた形での優先順位

といたしますか、そういうものを総合的に考えて見直しを今後されていかれるかと思うんですけど、それは、どういうタイミングで出てくるのかなって、今後どれぐらいいろいろ考えて出されていかれるのかをまずお伺いさせていただきます。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）こども園の見直しの作業については、今のところまだきっちり決まっていない。できるだけ早い時期にそれを出していかならんということはわかってとるんですけども、まだその見直しについての、どういう形で見直しするかというのは、5カ年計画があってそれを見直していくわけなんですけども、まだそのタイムスケジュールとかいう形の中ではまだできていないのが現状で、それですけども、できるだけ早い時期にそれをして皆さんにお示ししたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）大変私も言いにくいんですけど、やっぱり今橋本市の、要するにゼロ歳児から就学前までの子どもさんが行かされている施設を見させていただいて、約43%の方が私立の施設へ行かれています。残りの42%の方が保育所に行かれています。すごいウエートを占めている保育所になると思うんです。この整備が、幼保一元化計画がとまっているがために、いろんな小規模による改修、中規模による改修、まず大規模でやらなければならない改修が、何かすべてとまっているように思うんです。

ほかの市をちょっと私なりに調べさせていただいたんですけど、そういう整備計画といたしますか、こども園を含む保育園並びに幼稚園の総合的な総合計画というのが、このこども園構想を進める中で出されているのがい

ろんな市でもあるんですけども、すごい、何というか、総合的に考えているんで、厚みがあるといいますか説得力があるというか、いろんなことを鑑みてそういう総合素案を出されている市も見させていただいたんですけども、そういう全体的な総合素案としてでも、どういうふうになっていくのかというのを、まず、財政がお金がない、財政的に厳しいというのはわかるんですけども、まずは、そういう素案を次に出していくということが、議論する上にも、また、市民の人に理解していただく上にも大事なことではないかと思うんですけども、その辺をどういうふうに進められていかれるのは、何もない、今後の計画は全くめどが立たないというふうに考えてよろしいんでしょうか。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）全くめどが立たないじゃなくて、先ほども答弁させていただいたとおり、できるだけ早い時期でそれをやりたいと。

ただ、今議員おただしのような厚みのあるという形も、それをご参考にさせていただきます。できるだけ早い時期で、保育所につきましては、もうかなり古い、議員おただしのおり、だいたい昭和50年ぐらいですかね、できた施設ばかりでございます、ほとんどは。そういう面も含めまして、できるだけ早い時期に、今のところまだその具体的な、実際に行きまして、具体的なものを持っておりませんので、できるだけ早い時期にご提案させていただくという形で進めさせていただければありがたいなと思っております。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）すいません、しつこくて。高野口においてもこども園ができました。すばらしいこども園ができたんで、それはそ



れていいんです。でも、こども園だけではなくて、その隣にある名古屋保育所、伏原保育所も、すごい老朽化も激しい保育所があるんです。だから、こども園ができているからもういいんじゃないのということではないと思うんです。特に、そういうところ辺をすべて含めて、中には、トイレ的なものの整備とか、それから、衛生面であります洗い場の整備とか、そういうのも、それは小規模でできることですよね。そういうことが、大きな計画がないためにすべてとまっているように思うんですけれども、そういうことも順次必要かと思うんで、やっぱりそういう総合計画というのは進めていく上で早く出すべきやと考えるんですけど、それは、いつということが言えないで、その辺については、もういっぺん、答弁もらえます。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）保育所の修理につきましては、現課の方で、子ども課のほうなんですけども、各保育園から修繕に要するものについて聞いております。今も、予算の範囲内で、そんなに大きくは予算は、修繕費はないんですけども、予算の範囲の中で緊急を要するものを順次させていただいておるといふか、すべてとまっている状況ではございません。順次させていただいております。

また、さっきも答弁させていただきましたとおり、こども園構想から外れる園につきましては、耐震はやっていくというような方向で、それはもう当初から計画に入っております。

ただ、こども園構想が今度見直しで変わってくる場合もありますので、それを見て検討していきたくという形で答弁させていただいたところがございます。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）どうぞ、よろしく願いをいたします。

次に、私、給食をいただいたんですけど、応其幼稚園でまず給食をいただいたんです。このときに、鯨の竜田揚げをいただきまして、それと、牡蠣の入ったコッペパンをいただいたんですけど、何十年ぶりかで鯨いただきまして大変嬉しく思ったんで言うわけではないんですけど、一応24年度から給食を開始したときに幼稚園も含めてということも答弁いただいたんですけども、やっぱり別に幼稚園として、要するに、保護者からのニーズから言えばね、幼稚園が同時にじゃなくても、特にこの小学校と同一敷地内にある幼稚園に対しては前倒しでも十分できるんじゃないかというふうに、随時、すべて統一してというんじゃないかなというふうに思うんですけど、その辺はどうなんでしょうか。

○議長（中西峰雄君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）先ほども答弁させていただきましたように、次の中学校給食を考える時点で幼稚園の給食を考えたいということでもありますので、同一敷地内であるにかかわらず、やはり旧橋本、旧高野口、統一的にやっていくべきだという判断をしておりますので、そのように考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）幼稚園の園児がだんだん少なくなっている中で、いろんなニーズを求めて、どうしてもその中でも公立幼稚園をいきたいって、公立幼稚園を希望されている保護者の方もおられるんで、その方のニーズにこたえるという意味では、別に不公平というふうな、不公平というよりか、ニーズにこたえてあげるという、できるところからしてあげるというふうに考えてあげてもいいんじ

やないかなというふうには私は思います。もうそれは、今後考えていただきたいというふうに思います。

次、もう一つ、この保育所でも給食をいただいたんです。この保育所の給食をいただいたときは、もう私、すごいなと思って感動いたしました。もうすごいアレルギーがきつい子どもさんに対する給食に対して、除去食ではなく、本当に代替食としてやっていただいているんです。それも、きちっとそういう病院の診断書をちゃんととった上でのものとでされているんですよ。

例えば、卵がダメな子どもさんには、卵の白身には白身魚を利用して、中身の黄身のところにはカボチャを利用して、全く卵に見えるようにやったださっているんですよ。すごい、とても家ではできませんというふうなお声をいただいて、本当に保育所の現場の調理員さんはじめ、保育士さん一緒になってそういうアレルギーに対して対応されているのに、私、もうすごい感動したんです、もう本当にすごいやっていただいているんやなと思って。それが、結局、その人が橋本市の保育所に行かれています方、ほとんど対応されていますでしょう。それ、私立でも対応されていますよね。そしたら、ほとんど行かれています約80%ぐらいの子どもさんはアレルギー対応食はやられているんですよ、できているんです、橋本市は。基盤がちゃんとできているんですよ。すごいなと思ったんです。

私、19年の12月にこのアレルギー対応に対する質問をさせていただいたときに、教育長が、こういうふうに保護者の要望があるからと言って安易に対応することがあってはならないと言われて、アレルギーは一つ間違えれば死亡事故につながるというふうにして答弁いただいたんですけど、いや、保育所の現場ではね、すごいできている、もうその基盤はで

きているんじゃないかなというふうには私は感じました、もうすごいやっていただいているって。

だから、それを、今度、小学校、中学校になったらセンター方式になるからということいろいろまた課題はあるかと思うんですけども、現場で働いてやったださっている方のいろんな知恵というか、それはすごいものがあると思うんでね、ほんま、私、すごいと思いましたよ。だから、できないことはないなって。もう、どの辺まで検討していただいているのかなというふうにも思うんですけど。要するに、この、中学校給食まで統一できた時点でもね、アレルギー対応も含めた形でできるのではないかなというふうな期待を持っているんですけども、いかがでしょうか。

○議長（中西峰雄君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）アレルギーにつきましては、昨年の12月議会でも一般質問があり答弁をさせてもらっております。

アレルギーの対応については放置すべきではないと考えておりますが、現状の施設や人的環境のままでは対応できない状況です。また、この問題は、先ほども議員ご指摘のとおり、慎重かつ万全を期すべきことであると考えておりますので、栄養士や専門家の意見も聞きながら今後も検討を続けていきたいと考えております。

それから、橋本学校給食センターと高野口学校給食センターでは、それぞれアレルギーの状況につきまして、昨年9月、10月、それぞれ保護者のアンケートをいただいております。その中で、保護者の方のそういったアンケートに対応する答えの中で、高野口におきましては、アレルギーということで把握できている保護者の方の判断ですが、155名、それから、橋本学校給食センターでの関係でのア

ンケートの回答では126名ということで回答をいただいております。そういったところの分析もしていきながら、今言ったような人的な環境、それから、設備の環境、高野口の学校給食センターにはあるんですが、その設備だけではまだ対応できない部分もあります。そういうことも検討を加えながら今後も研究をしていきたいと思っております。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）どうか前向きに、前へ進めていただけたらというふうに思いますので、どうかよろしく願いいたします。

今回、私は、子育てを直接担うということでの保育行政というふうにかかせていただいたように、この現場がやっぱり子育て、私たち、特に女性の立場といたしましては、子育てを担う直接の場が保育所やと思っておりますので、この辺の整備についてさらに充実させていただけますようお願いを申し上げたいと思います。ありがとうございました。

○議長（中西峰雄君）これをもって、22番 楠本君の一般質問は終わりました。